

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	現在掲げている理念は、開所前に当時の全スタッフと共にそれぞれのスタッフの思いを意見交換しながら考え作成したものである。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝申し送り時に理念を復唱しており、ホーム会議時や新人スタッフのオリエンテーション時にも説明し意味を伝えている。またホーム会議時にあがる議題に対する解決策等も、理念をベースに考えている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会や運営会議時に理念を伝えている。	○	今後は、ご家族様や地域の方と接する機会を今よりも増やしていき、言葉(説明)だけでなく理念を体言化(態度)する努力をしていきたいと思う。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時に挨拶をしたり、また近隣の方から声を掛けて頂いたり、時には花などを頂いたりする事もある。また運営推進会議時に、ホームに見学に来て頂けるように声掛けもおこなっている。	○	最近少しずつではあるが地域の方が予告もなく訪問されたり、電話してこられ、相談してこられる姿が見受けられるようになって来た。今後は相談だけでなく気楽に遊びで立ち寄り頂けるような雰囲気作りを模索していきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りや敬老会に参加させて頂いた。	○	開所して2年目に入り、徐々に地域に向けての活動に参加していける準備が整いつつあるのが現状である。また現在 区長の方に地域参加意思の旨をお話しており、何かあれば声掛けして頂けるようお願いしている。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者等に対する取り組みが出来るほどまでホーム内が安定していない。	○	まず地域活動への参加の取り組みが軌道にのってから、徐々に取り組んでいきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム会議時に外部評価を受ける必要性を話し協力と理解を求め、また開設当初からいるスタッフ等に「自己評価票」を説明し個々の考え等を記載してもらった。	○	今回 初めて外部評価を受けるため、外部評価にて得た改善点は今後になるが、ホーム内にて発生する問題点はホーム会議等でも話し合い、改善に取り組むようにしている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新しく入居した利用者様の状況や、ホームの近況報告、ホームの現在抱えている課題等を話し、家族や行政、民生委員等から意見を頂き、ホーム会議で職員に報告している。	○	直ぐ改善できる事、時間を要する事を職員全員で話し合い、少しずつできる事から改善に取り組んでいきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	変更届けを提出する時に ホームの近況報告をしたり、電話等で空き状況や入居希望者の連絡をおこなって頂いている。	○	広報を作成し、今より積極的に役場に出向くようにしたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見制度についての話しは、特定の家族に少し話しをしたのみで基本的にスタッフや家族に制度の話しをする機会をもったことはない。	○	スタッフにはホーム会議、ご家族には運営推進会議や家族会などで、制度の話し合いを出来るようにしていきたい。
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ全員集めての話し合いはないが、スタッフによっては個人的に話しをしている。	○	ホーム会議などで、虐待等について話し合いをおこない、知識を深めていく。
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時は 契約内容の説明や質疑応答、ホームへの要望等 など 話しが十分出来るように時間を設けている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より 入居者様が何でも言いやすい環境作りに努めている。スタッフが会話や様子観察等で得た情報をホーム会議や朝礼時に話し合い、改善に取り組んでいる。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会に来られた時や異変が見られた時など、その都度報告している。また遠方に住んでいるご家族様には、請求書を送る時に手紙で報告する。	○	スタッフの異動および退職については、よく面会に来られるご家族様には伝えることが出来ているが、その他のご家族様にも報告できるよう取り組みたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特別な働きかけはおこなっていないが 面会時は極力話しをする時間を作り、運営推進会議ではご家族様からの意見・要望を聞く機会を設け、そこから得たご家族様からの話しをホーム会議等で報告し、必要であれば話し合いをし取り組んでいる。	○	今後は ご家族様が話をしやすい雰囲気作りに取り組み、また改善の必要があれば円滑に取り組んでいけるよう 取り組んでいきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議や定期的に個人面談の機会を設け、スタッフとの話しをする機会を設けている。	○	直ぐに改善できる事柄、改善までに時間が必要な事柄をスタッフに納得してもらいながら、反映させていく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	現在は柔軟な対応が出来る勤務調整を行っているが、人件費等の問題で、今後も今の勤務体制が維持できるかわからない。	○	利用者の生活に影響を及ぼさないよう、また、職員に負担が掛からないよう、入居者の状況に応じて職員と話し合いながら、今後も対応できるようにしていきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者が極力減るように定期的に個人面談をし各スタッフの意見や要望等を聞くようにしており、またスタッフの動向を気にする入居者には、前もって個人的にスタッフの異動や離職等を伝えている。		
	5. 人材の育成と支援			
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては特に条件は出しておらず、「やる気・明るさ」を重視している。またスタッフが持ってきたアイデアや挑戦してみたいことは問題が見受けられなければ まず行って貰うことにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ホーム会議や朝礼等で話しをしている。また個人面談時に必要であればアドバイス等を行っている。	○	研修などに参加してもらい、意識や知識をたかめていきたい。
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開所して1年で、事業所全体および職員の研修計画を行うまでに至っていない。	○	少しずつ スタッフに外部への研修へ出向けるように取り組んでいき、スタッフ育成に力を入れていきたいと思う。
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	挨拶まわりに行く程度で、特に交流する機会を設けていない。	○	粕屋町で設けているケアマネ研修等の参加をお願いしている。研修等の場などで少しずつ交流を進めていきたい。また同業者との関わりも増やしていきたい。
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	本社は佐賀にあるので、通常は電話連絡だが来訪した時は極力話しをしている。	○	定期的な話し合いをしていけるよう調整していく。
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	事業所の勤務実績表を毎月本社に提出しており、社長も目を通して見ている。また、電話等で職員の状況等を報告し、本社からの要望は職員の負担に掛からない程度にしており、働きやすい事業所づくりに努めている。		
	II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学時や面談時よりコミュニケーションを取る事で様子観察を行い、入所後もコミュニケーションをこまめに取りながら、会話や動作の中で本人が望んでいることなどを察知していくよう努めている。		
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学に来られた際は ご家族様とゆっくり話しをする時間を設けており、また契約時にもご家族様が納得されるまで時間を設け話しをしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要として いる支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努め ている	入居者様およびご家族様の状況を聞き、状態を 様子観察しながら話しをするよう心がけており、 その中から必要なサービスを優先に提案し話し 合っている。		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、 サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用 者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら 工夫している	入居する前に ご本人様にも見学に来て頂き、 ホームの雰囲気や他の入居者様、スタッフと関 わってもらっている。またホームに来場して頂け ない場合は、面談等もおこなっている。希望や状 況に合わせて体験入所も行っている。		
	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過 ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう 関係を築いている	良いこと・言い辛いことなど常に言い合えるよう、 普段から関わりを多く持つよう努め、コミュニ ケーションを日々取っていくようにしている。		
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽 を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	異変に気付いたり またあった場合には、ご家族様に連 絡をしたり、また面会時に状況報告をおこない、共に対 応していけるような体制作りに取り組んでいる。	○	面会に来られる回数が少ないご家族様には手紙等でお 知らせしているが、ホームに少しでも多く足を運んでもら えるよう呼びかけをしていくよう努める。
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関 係が築いていけるように支援している	これまでの生活暦やホームに入所されるまでご 家族様とどのように関わってきたか等の情報収 集をおこない両者の立場を考えながら、良い関 係が維持出来るように努めている。		
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の方には自由に面会に来て頂いた り、また行きつけのお店などは買い物時に一緒 に行ったりしている。		
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用 者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人一人の状態や状況を見て、スタッフがフォ ローをおこないながら、入居者様同士の関わり 合いが上手く出来るように援助をおこなってい る。		
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要と する利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大 切にしている	医療的援助が必要となり退居となった入居者様 が一人いるが、退居後の関係は現在ない。	○	ご家族様が退居後も必要とあれば関係を求め やすい雰囲気作りに取り組んでいく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中で各入居者様が何を望んでいるかを察知することに努めると共に、場合によってはご本人様と二人になった時に話を伺えるような雰囲気作りをし、話しを伺っている。		
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様に面会時やケアプラン説明時等に、生活暦や入居する前のことなど聞くようにしている。	○	情報シート(フェイスシート)等を特に設けていない為、別に設けていき、職員全員に情報が確実に行き渡るようにする。(利用者様1人1人を更に知って頂くようにする。)
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者様一人一人の状況や状態を日々見ながら、その方にあった過ごし方を検討していくように努めている。		
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ホーム会議の中 ケアカンファレンス等でスタッフと協議したり、面会や電話等でご家族様から変更や要望等があった場合など、さまざまな意見を取り込んだ介護計画を作成するよう努めている。	○	ご本人様との話しを今以上に設け、入居者様本位のケアプランにもっと近くなっていくよう努める。
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	各入居者様の状況に合わせ、プランの見直しや新たなプランが必要な場合は、ご本人様やご家族様 またはスタッフ等とも話しをし、迅速に新たな計画を作成するよう努めている。		
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	現在の個別記録は行動記録になっており、ご本人様の様子や発言等が記載されていない。情報は管理日誌より共有しているのが現状である。	○	今後 個別記録はご本人様の様子や発言等が反映されている書き方、プラン内容状況が確認出来る書き方を取り入れていく必要がある。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホーム単独(1ユニット)の為、多機能性を活かした支援が出来ていない。	○	同会社系列および協力施設が、佐賀や東区等にあるので今後少しでも協力体制を築いていくよう努める。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	各ご本人様から地域資源を必要とする内容等は現在聞かれてない。	○	現在、運営推進会議に民生委員の参加はあるものの、その他の繋がりには殆どなく、中でもボランティアや公共機関との繋がりはないのが現状である。今後は積極的に繋がりを持てるよう考えていきたい。
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	特に他事業者との関わりはなく、ホームでのサービス利用にとどまっている。	○	今後 各入居者様の意向や必要性を考慮し、他のサービスが利用出来るよう他事業者との関わりを考えていきたい。
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターからの問い合わせ等はあるが、関わり自体は少ない。	○	今後 協働が必要になった場合を考慮し、ホームからも積極的にアプローチを試み、互いの関わりを深めていくよう努める。
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、契約時にご家族様の希望に沿って決めている。かかりつけ医と上手く連絡を図れるようにご家族様からの援助もおこなってもらっている。また協力医療機関との関わりがスムーズにいくように努めている。		
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じて専門医への受診が出来るよう、主治医に紹介状を書いてもらい 受診出来る体制を作っている。	○	今後は精神科の観点も考慮し、精神科等の医師とも相談等が出来るよう考えていきたい。
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームスタッフに看護師がいない為、協力病院機関系列の訪問看護や往診医との繋がりのある訪問看護の利用をおこなっている。	○	少しでもより良い医療提供や健康維持に努めるためにも、看護師の採用を検討していきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ご家族様や、入院先へのお見舞い時にNSや担当医から情報を聞くよう努めている。知り得た情報はホーム会議や申し送り等で全スタッフとも共有し、いつ退院して来られても受け入れ出来るよう努めている。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状態変化が見られた入居者や、末期癌が見つかった入居者様等のご家族との話し合いは状況に合わせておこなっており、また話し合い後は必ずスタッフにも情報伝達し共有をおこなっている。だが かかりつけ医との話しは不十分である。	○	かかりつけ医との話し合いを強化するよう努め、また現在 状態が安定されている入居者様のご家族様とも今後の話しを進めていくよう努めていく。
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホーム会議やケアカンファレンス等で、スタッフの自覚レベルを考えながら、少しずつ重度化に向けた話し合いをおこなっている。	○	かかりつけ医とも、重度化や終末期にむけた対応等を話し合っ、連携体制等の強化に努めていきたいと思う。
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居前に、入居予定者様の担当ケアマネージャーや医療機関からの情報交換に努めており、知り得た情報はスタッフに情報伝達し共有をおこなっている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	スタッフによっては出来ていない時もあり、ホーム会議や申し送り等で、指導に努めている。	○	全体での指導はもちろんのこと、個別にも指導していく。
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常 入居者の話しに耳を傾けるよう努め、入居者様のペースで話しを進めるよう努めている。支援が必要な場合は無理強いせず、さりげない声かけ等など各入居者様の意思を尊重した支援を心がけている。		
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のその日の状態に合わせ、ご本人様の意志を聞きながら、支援するようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	更衣など 自力で可能な入居者様は、ご本人にして頂いている。また理容・美容室に関して、ご家族様と近くの美容室に行かれる入居者様もいれば、訪問美容室にも来て頂きご利用されている入居者様もいる。		
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	自発的に手伝いをしてくださる入居者様や声かけに応じられる入居者様と共に、入居者様一人一人の能力に応じて、盛り付けや調理(炒め物等)などをおこなって頂いている。		
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	晩酌や煙草の習慣のある入居者様には、主治医の許可のもと 制限しない方向で援助するようにしている。またおやつや飲み物など、各入居者様の好みを把握し用意しており、状況に合わせてお出ししている。		
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者様一人一人に応じたトイレ誘導や排泄援助を行っているが、排泄の失敗に関しては減少傾向にあるが、オムツ利用者様のオムツ使用を減らすまでには至っていない。	○	現状の排泄援助を続け、改善への方法を常に考慮していきたい。
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴施行開始前に声かけをおこない、午前か午後の希望を伺ったり、また該当入居者様の様子等を伺いながら声かけを行うなど、一人一人のペースに合わせるよう努めている。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	見たい番組がある時は 時間制限なく視聴して頂いてから休んで頂いたり、眠れない時はリビングにてスタッフと一緒に話しをしたりして 眠くなるまで起きて頂いている。強制的に寝て頂いたり、休息を取って頂くことは無い。		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	編み物、刺し子、散歩、食器拭きなど 入居者様一人一人に合った役割をおこなって頂いている。	○	意志疎通が上手く出来ない入居者様の思いを上手く汲み取れるまでに至らない事も多いため、今後の課題として努める。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のみ所持して頂いているが、入居者様同士でのお金の貸し借りがあった為、極力お金は持って頂かないようお願いしている。	○	入居者様一人一人の状況を把握し、どうしたらトラブル(金銭の貸し借り等)を防ぐことが出来るか考え、今後買い物時などに自由にご自身でも買い物が出るなどの支援をおこなう方向で努めていきたい。
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	スタッフと共に 日常的に散歩を楽しんで頂いているほか、買い物の際にも共に行って頂いたりしている。現在、インフルエンザの影響もあり散歩以外は極力控えてもらっている。	○	遠出(町内の散策など)など出来る範囲での外出を増やしていきたい。
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月ホーム行事として、季節に合わせた(いちご狩り、大宰府天満宮、福岡タワーなど)外出等を設けている。	○	ご家族様との外出機会が少ないため、ご家族様と相談しながら出かける機会を設けられるよう努めていきたい。
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	親類(子供や孫など)に手紙を書いて頂いたり、直接電話して頂くなどは少ないが、ご家族様から連絡等があった場合は ご本人様とも話しをして頂くようにしている。		手紙のやり取りは 特定の入居者様のみだけになっている為、他の入居者様にも可能な限り積極的に支援していけるよう取り組む。
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会に来られた際 ご本人様との関係をお聞するが、ご家族様からの面会制限が無い限り、制限無く面会をおこなって頂いている。		
	(4) 安心と安全を支える支援			
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフは、身体拘束をおこなってはいけないという事は知っているが、何故いけないのか等の理由を正しく理解しているとは言い難い。	○	ホーム会議等で身体拘束の勉強会をおこなっていき、入居者様に安心して安全に生活して頂けるよう意識付けをおこなっていく。
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関と自動ドアがあり、玄関は日中鍵をかけず、自動ドアは電源は入っていないが手動でいつでも開けられる状態である。だがスタッフになぜ鍵を掛けないかの意識付けは出来ていない。	○	鍵をかけない意味などをホーム会議等で勉強会をおこない、スタッフ一人一人が理解し意識付け出来るようにする。
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフ間のケアの統一が上手く出来ていない事もあり、見守りが不十分になっていたり、安全性に欠ける介助が時折見られる。	○	再度 ケアの統一性を見直し、また施行に関しては、見張りとは勘違いされるような見守り介助にならないよう、入居者様一人一人の性格等を配慮して、行動等を把握するように努める。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	常に入居者様一人一人の状態の把握に努めており、危険物の是非をそれぞれ考えながら、身の回りまた要求に対しても対応している。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告書や事故報告書に記載してもらい、ホーム会議やケアカンファレンスなどで報告し、話し合いを行う事で、事故対策をおこなっている。	○	現在、報告書以外での入居者様一人一人の状況に応じた具体的な事故防止策をおこなっていないので、今後 取り組んでいきたい。
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	夜間帯緊急時の対応手順を作成しているが、全スタッフが応急手当が施行出来るまでには至っていない。	○	今後 ホーム会議等で、応急手当(蘇生法の仕方など)の勉強会をして、知識を得れるよう取り組んでいきたい。
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議時に、区長様より災害時には地域の公民館への避難を勧められており、援助協力の依頼をしている。また地域防災訓練時の呼びかけも依頼している。	○	開所して1年になるが、避難訓練を施行出来ないで年内には消防署立会いのもと訓練を行いたい。
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご家族様の面会や電話連絡時に、今の状況・今後の事などを話し、意見交換や 対応を検討している。		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に入居者様の状態観察・把握をおこなう様に、申し送りやホーム会議またはケアカンファレンス等で話しをしており、異変時には管理者への報告を行い、管理者の指示のもとに対応している。	○	体調の変化や異変時の気付きが出来るスタッフにバラつきが見られるため、スタッフの育成に力を入れていく。
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援や日々の状態観察には努めているが、入居者様一人一人の病気や服用している薬等の把握をしているスタッフが少ない。	○	ホーム会議や申し送り等で、入居者様一人一人の病状や、それに対する薬の作用・副作用を報告する事でスタッフの医療知識への興味を引き出し、意識の改革をしていくよう努める。
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	こまめな水分補給および水分量のチェック、また毎日ラジオ体操やストレッチの施行、可能な限り散歩へ行って頂いている。	○	水分量は1日に1500ccを目標に 1000ccは確実に水分を取って頂くようにしているが、その日の状況によってバラつきが見られるので、バラつきをなくす。また今後は栄養バランスにも考慮していきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	全入居者様に、起床時・毎食後に口腔ケアを施行しており、介助が必要な入居者様にはスタッフが援助し、自力可能な入居者様には自力でおこなって頂き スタッフが見守りをおこなっている。		
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者様の状態に合った食事量を提供する様にしている。その日その日で料理を作るスタッフがメニューを考えている為、栄養バランスが図れているとは言い難い。	○	栄養バランスを考えたメニューの作成をおこなっていききたい。
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成しており、必要時にはマニュアルに沿って施行していく様にしている。またスタッフは手洗い・ウガイを済ませてから現場に入るようにしている。	○	C型肝炎の入居者様もいらっしゃるの、C型肝炎も含め感染症に対する勉強会をおこなっていききたい。またマニュアルを周知徹底していけるよう取り組んでいききたい。
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夕食後に毎日、布巾・まな板をハイターに付け洗っており、キッチンも使用終了後に掃除し、除菌スプレーを吹き付けている。	○	冷蔵庫内の食材等を点検しながら、賞味・賞費期限内に使用することが上手く出来ていないので、全スタッフに注意をしていくよう意識付けをおこなっていききたい。
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	鉢植えを玄関に置いており、少しでも家庭的な雰囲気になるようにしている。	○	緑がもっとあったほうが雰囲気が出ると思うので、小さな花壇に花を植え、少しでも植木や花を多くして、明るい雰囲気を出していききたい。
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	構造上の関係もあり音が響くため、小さな音でも大きな音になりやすい。	○	スタッフ一人一人が、不快な音となる生活音に注意を払って、少しでも消音になっていくよう心がけていく。
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを自由に使用し過ごして頂けるよう設けており、また食卓では趣味活動も自由におこなえる様に援助をしている。	○	ソファを使用する方々が決まってしまう、その為ソファの使用を遠慮する方もいらっしゃるため、全入居者様が自由に使用出来るよう配慮していく。
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には自由にテーブルやソファ等を置いて頂き、寝具等は使い慣れた物などを持ち込んで頂くなど、自室でも快適に過ごせる空間を作り心掛けています。中には位牌を持ち込まれている入所者様もいます。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	午前中は 共用部分および各居室の窓等を開け、こまめに温度計や湿度を確認しながら、エアコンを使用したりなど、温度調整に努めている。また夜間帯も巡視を行うなか、温度調整に努めている。		
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや入浴室など、入居者が主に使用する場所には判り易く表示をしたり、共用部分(リビングや廊下など)には混乱を招く可能性があるものや、障害になる物のを極力置かないように心掛けている。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各入居者の日々の状態等を、ホーム会議やケアカンファレンス、また申し送り等で 全スタッフで情報共有に努め、対応をおこなっている。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキを設けており、自由に出入り出来るようにしている。またウッドデッキにはプランターにて野菜や花を植えており、室内からも見え内外共に楽しめるようにしている。		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
v サービスの成果に関する項目		
90	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 》①ほぼ全ての利用者の 《 ○ 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
91	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 》①毎日ある 《 ○ 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
92	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 ○ 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
97	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 》①ほぼ全ての家族と 《 》②家族の2/3くらいと 《 ○ 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
98	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 》②数日に1回程度 《 ○ 》③たまに 《 》④ほとんどない
99	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《 》②少しずつ増えている 《 ○ 》③あまり増えていない 《 》④全くない
100	○職員は、生き活きと働いている	《 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2/3くらいが 《 ○ 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
101	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
102	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての家族等が 《 ○ 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない